

# 産地戦略

実施主体 横手市えだまめスマート農業協議会  
 都道府県 秋田県  
 対象地域 横手市  
 対象品目 えだまめ

実施期間 令和4～5年度



## 新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

## 目指す姿

本地域の農業産出額は県内トップを誇り、園芸品目のJ A 系統販売額が全県一位となるなど、県内においては複合化経営が最も進んでいる地域である。近年は、農業基盤整備事業の実施地域において高収益品目の導入が検討されており、そのなかでも土地利用型品目への関心は高く、特にえだまめは、機械化一貫体系の確立が進んでいることから、導入希望の高い品目である。

当産地が将来にわたって発展していくためには、持続可能な農業の実践が必要不可欠であるが、現状ではG A P 手法の取組にとどまっており、今後は化学農薬及び化学肥料の低減、並びに作業負担の一層の軽減が課題となっている。

このため、緑肥や生分解性マルチの活用、機械除草の実施により、化学農薬及び化学肥料の低減を図るとともに、先端農業機械等による省力化技術を併せて活用することで、生産性を維持しながら環境負荷の低減を図る。

## 現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考	
主な作業名	【早生品種】 播種 → 本畑管理 → 収穫													
	【中生品種】 播種 → 本畑管理 → 収穫													
技術名	【早生品種】 播種機、除草剤①、除草剤②、収穫機													除草剤①は全面土壌散布(土壌処理)、 除草剤②は雑草茎葉散布
	【中生品種】 播種機、除草剤①、除草剤②、収穫機													

## グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考	
主な作業名	【早生品種】 マルチ厚張 → 播種 → 本畑管理 → 収穫 → すき込み → マルチ													
	【中生品種】 播種 → 本畑管理 → 収穫													
技術名	【早生品種】 同時作業機、自動操舵+、生分解性マルチによる抑草、収穫機													除草剤①は全面土壌散布(土壌処理)  同時作業機による作業内容は次のとおり。 早生品種：耕起、畝整形・マルチ、播種 中生品種：耕起、畝整形、播種
	【中生品種】 同時作業機、自動操舵+、除草剤①、乗用中耕培土機、自動操舵+、新型収穫脱英機													

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R4	目標R10	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	<b>82.7</b>	▶ <b>87</b>	
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	<b>0</b>	▶ <b>15</b>	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	<b>0</b>	▶ <b>2</b>	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	<b>0</b>	▶ <b>15</b>	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	化学農薬を中心とした雑草防除	生分解性マルチの活用 (早生品種) 機械除草の活用 (中生品種)	化学農薬 (除草剤) の使用回数の削減
省力	耕起・畝整形・マルチ・播種作業を分けて実施	自動操舵システムを搭載した耕起・畝整形・マルチ・播種同時作業機の活用	・自動操舵システムによる作業精度の向上 ・同時作業による省力化
省力	管理機又はトラクターにより中耕培土作業を実施	自動操舵システムを搭載した乗用中耕培土機を活用	・自動操舵システムによる作業精度の向上 ・作業効率の向上による省力化
省力	収穫作業後に、機械又は手作業による脱莢作業を実施	収穫脱莢機 (えだまめコンバイン) の活用	作業効率の向上による省力化

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学農薬 (除草剤) の使用回数の削減 (回)	<b>2</b>	▶ <b>1</b>	早生品種は全面土壌散布 (土壌処理)、 中生品種は雑草茎葉散布を削減
環境	生分解性マルチを活用した栽培面積 (ha)	<b>0</b>	▶ <b>2</b>	
省力	耕起・畝整形・マルチ・播種同時作業による作業工程の削減 (工程)	<b>4</b>	▶ <b>1</b>	
省力	自動操舵システムを搭載した乗用中耕培土機による省力化に取り組む面積 (ha)	<b>0</b>	▶ <b>15</b>	
省力	収穫脱莢機による省力化に取り組む面積 (ha)	<b>0</b>	▶ <b>15</b>	

\* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する (有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする)

\* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

栽培講習会や関係機関・団体のウェブサイト等を通じて、農業者に対してグリーンな栽培体系の導入効果を周知することにより、環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の普及・定着を図る。

また、省力化に資する技術の核となる作業機械については、補助事業等により導入費用の低減を図るとともに、省力化のメリットが大きい農業法人等の中へ大規模経営体を中心に導入を推進し普及・定着を図る。

関係者の役割

関係者名	J A 秋田ふるさと 枝豆部会農業者	J A 秋田ふるさと 枝豆部会	J A 秋田ふるさと	秋田県平鹿地域振興局 農林部農業振興普及課	横手市農林部 農業振興課
役割	【令和6～10年度】 ・グリーンな栽培体系の実践 ・各種作業機械の導入検討 ・生分解マルチの導入検討	・栽培講習会の開催 ・技術に対する評価 ・産地戦略の取組推進	・栽培講習会への参加誘導 ・技術指導 ・情報発信 ・産地戦略の実績取りまとめ	・技術指導 ・情報発信 ・グリーンな栽培マニュアルの見直し	・補助事業化の検討 ・情報発信

その他